



ラッキーナスビ2.5



授業で学ぶ ナスビの売り方

「話し合い」を話し合う

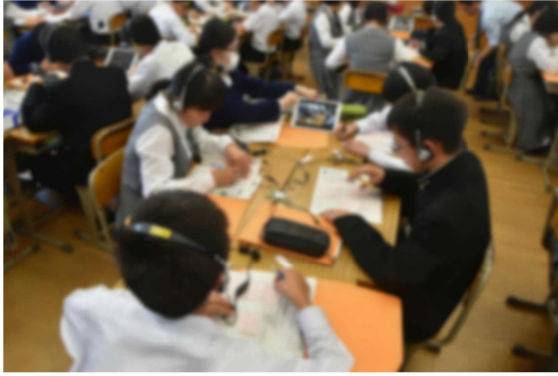
「我等の目標」の実現へ

「話し合い」を学ぶ

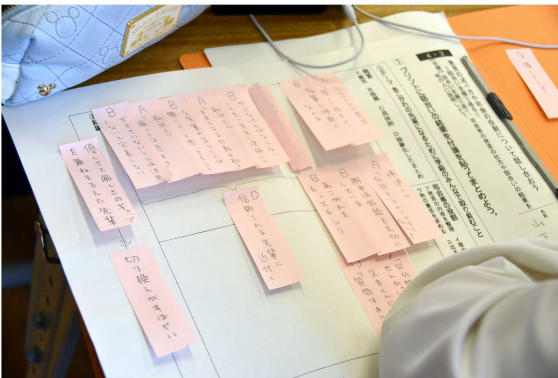
第2学年の国語科授業では、「話し合い」について話し合う授業が行われた。

第2学年のヴィジョン「先輩と呼ばれる2年生」を実現するにはどうすればよいか。2年生の生徒たちは、様々なアイデアを出し合い、まとめていく。こまでは、日常のありふれた光景である。しかし、ここからが本番である。

国語科授業を担当する吉田健太郎先生の取組である。話し合いの様子は、グループごとにタブレット機器を使って録画されていた。そして、グループの生



▲ヘッドフォンをつけて視聴する生徒たち



▲付箋を使った話し合いの分析

徒たち全員がヘッドフォンを装着し、自分たちの話し合いの様子を見る。誰が、どのタイミングで、どんな発言をしたのか。そして、それらの発言は、話し合いのなかでどのような役割を果たしたのか。生徒たちは協力し、話し合いを分析していく。まさに自分たちの「話し合い」について話し合う学習である。この学習を通して、生徒たちは「よりよい話し合いをするためには、何が必要なのか(どんなことに気をつけていけばよいのか)」を考えることができた。国語科授業で学んだ「話し合いの技法」が、今後、様々な場面で発揮されていく。

「話し合い」を学ぶ

国語科授業で学んだことは、まさに「ナスビの売り方」そのものであった。たとえば、次のような「ナスビの売り方」を学ぶことができたであろう。

- 〔状況〕話し合いを進めているなかで、
- 〔役割〕司会者が
- 〔行為〕各発言者の意見を「似ているもの」や「対立するもの」というかたちで整理することで
- 〔効果〕話し合いのテーマのもとで、意見をまとめる方向性が見えてきて
- 〔我等〕「真理を探究しよう」「お互いに協力しよう」の実現へ！

毎日5〜7時間の授業を受ける。それらの授業で学ぶことなかには「ナスビの売り方」がたくさん詰まっている。まさに「ナスビの売り方」の宝箱である。大事にしたいのは、その宝箱から「ナスビの売り方」を見つけて出そうと意識すること。ではないだろうか。ただ授業を受けるのではなく、そのような意識をもって授業に臨むことで、多くの「ナスビの売り方」を自分から見つけ出す力をも育んでいくことができるであろう。

数学、英語、社会、理科、技術・家庭、音楽、保健体育、美術。さあ、見つけていこう！

「北斗の時間」が動き出す

委員会活動「北斗の時間」が動き出す。全体オリエンテーションでは、生徒会総務より今年度のしくみについて、議長団より話し合いの重要性についての話があった。



▲全校生徒に説明する生徒会役員

そのなかで、全校生徒には昨年度から作成・発行している「話し合いの教科書」が配付された。この教科書にも、国語科授業と同様、話し合いの技法がふんだんに盛り込まれている。「話し合いの教科書」をこれからどう使い、どんな話し合いをしていくのか。一人一人に問いかけられている。

各教科の授業でも「北斗の時間」でも学べる「話し合いの技法」ナスビの売り方を見つけていこう！